千葉県立千葉高等学校

千葉県立千葉高等学校（佐藤晴光校長・千葉市中央区葛城1-5-2、電話043-227-7434）は、併設型中高一貫教育校で平成20年に県立千葉中学校を開校する。「重厚な教養主義」「真の学問の追求」を教育方針に掲げる伝統校で、国内外に有為な人材を輩出する名門。

文武不岐

全日制課程の併設型中高一貫教育校で男女共学。学年制普通科の3学期制。募集定員は320人。略称で「県立千葉（けんりつちば）」や「県千葉（けんちば）」、「千葉高（ちばこう）」と呼ばれる。中学は「千葉中（ちばちゅう）」とも呼ばれる。

始まりは、明治11年（1878）8月、千葉師範学校校内に千葉中学校と称して開校する。19年8月から千葉師範学校女子部の校舎（現・教育会館敷地）に移転となる。10月からは千葉県尋常中学校に改称。修業年限を5か年とする。32年4月に千葉県千葉中学校に改称、7月から校舎を現在地に新築移転する。

昭和2年6月に講堂（現存）が落成。23年4月、学校教育法による高等学校となり、千葉県立千葉高等学校がスタートする。翌年の24年4月から男女共学制を実施する。25年4月から校名を千葉県立千葉第一高等学校に改称。33年3月、創立80周年記念図書館（現存）が竣工する。36年4月から校名を再び千葉県立千葉高等学校に改める。53年5月には創立百周年記念小体育館と食堂（定時制用）が竣工。この年第1回強歩大会を実施する。

平成15年10月、創立125周年記念事業であるトレーニングルーム、ビオトープ、校歌碑、記念館改修がそれぞれ竣工となる。16年5月に県立高等学校再編計画第2期実施プログラムにより、県立千葉高等学校に新たに県立中学校が併設されることとなる。19年4月、千葉県教育委員会は校名の原案を「千葉県立千葉中学校」に決定。6月に千葉県議会で県立中学校設置条例が可決され、正式に校名が決まる。20年3月で定時制の課程を閉じる。4月に千葉県立千葉中学校の開校式を挙行。22年10月、千葉県立千葉中学校棟が竣工となる。翌年23年7月に「千葉県立千葉中学校新棟落成記念式典」を挙行する。26年3月に第2運動場整備が竣工。30年11月、「千葉県立千葉中学校創立10周年記念式典」を挙行する。

教育目標は、「1・民主的国家社会の有為な形成者として必要な資質を得るため、社会に対する広く深い理解と健全な批判力及び一般的教養を養成する、「2・自主的精神に富み、かつ自他の敬愛と協力によって、文化の創造と発展に貢献する円満にして豊かな個性を確立する」、「3・平和と人類の福祉に寄与し、真理と正義を愛して勤労と責任を重んじる実践力並びに健康な身体を育成する」の3項を掲げる。

『文武不岐』と玄関前の記念碑に刻まれた言葉がある。この碑は第2運動場の竣工を記念するとともに、本校OBで、ヘルシンキ五輪レスリングで金メダルをとった石井庄八氏顕彰したものである。『文と武は岐（わか）れず。これこそが千葉中高生が目指すべき姿と言う。勉強か部活動か、理系か文系かではなく、両者一体となった教育活動を展開する。また、この言葉に込められた、思いやりの心を身に付け、正しい行動ができる人間へと成長してほしいという願いが叶うよう、豊かな人間性の育成に努めるとしている。

創立145周年

全人格的な教養を育む

佐藤晴光校長は、「千葉高校は、明治11年に開校し、諸先輩方によってその歴史が刻まれた、全国屈指の伝統校です。これまでに本校を巣立った卒業生は、3万人を優に超え、国内外を問わず有為な人材を輩出し続けています。また、平成20年には、高校の敷地内に併設型中学校が設置されました。高校1年生では、1クラスあたり併設中学校からの進学者（内進生）10人と高校入試を経て入学した進学者（外進生）30人とが共存し、互いに認め合い、刺激し合うことで、更なる高みを目指しています」と話す。また、「本校の教育活動の特徴は、全人格的な教養を育むことを目的に、全ての教科で入念に準備された質の高い授業が展開されているということです。また、文と武、理と文を分けることなく、一体のものとして扱うことを基本としており、さらに、6学年の生徒が集う学び舎の利点を活かし、異年齢集団の交流を促進することで、他校には見られない、豊かな人間性の育成が可能となります。これこそが、未来のリーダーと成り得る資質能力の原点と言えます」と続けた。

重厚な教養主義

千葉高ならではの授業を展開する。「重厚な教養主義」は、教育活動全体を通して、全人格的に優れた人物の育成を目指す。単に大学に入るための知識の習得とは一線を画し、学術的分野の他、芸術的、文化的、体育的分野にも力を入れた、授業や課外活動を展開する。「授業第一主義」は、これまで幾多の困難を乗り越え、授業を最優先してきた長い歴史を持っている。年間の授業時間数を十分確保し、1時間1時間を大切にし、毎時間、質の高い授業を展開する。「基礎・基本の徹底」は、全ての教科で基礎・基本を徹底し、文理分断することなく、基礎学力を身に付ける。授業だけで大学共通テスト8割以上を得点できる基礎学力を育成する。

卒業時には、世界で活躍する心豊かなリーダーとなるよう、全人格的に優れた人物育成を教育活動全体通して目指している。

スクールポリシーは『アドミッション・ポリシー』、『カリキュラム・ポリシー』、『ラデュエーション・ポリシー』の3つがある。

アドミッション・ポリシーは「1・基礎・基本を身に付け、思考力・応用力に優れている人物を育成する」、「2・知的好奇心と向学心を持ち、自主的精神に富む人物を受け入れる」である。カリキュラム・ポリシーは「1・教科・科目のバランスとつながりを重視し、基礎・基本となる科目を全て学ぶことができる教育課程を編成する」、「2・探究的・自律的に考えて行動し、互いに支え合いながら協働的に活動することを重視する」である。ポリシーは「1・人類の歴史の中で永く蓄積・醸成されてきた学問的叡智を深く、幅広く学ぶことにより『重厚な教養』を身に付けさせる」、「2・『重厚な教養』に裏打ちされた力強く、柔軟な思考力と表現力を育成する」、「3・何事も自らの力で判断し、行動できる自主自律の精神を育てるとともに、自他を深く理解・尊重し、互いに支え合う協働の態度を育成する」である。

日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成

中学校から6年間の指針として、「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」を目指す。「千葉から」には、千葉県初の県立中学校で千葉県民として学び、巣立った後にも郷土への思いを胸に活躍してほしいという願いが込められている。『心豊かな次代のリーダー』には、日本や世界のあらゆる人々に共感をして、様々な人と力を合わせて世の中をより良く変えていく牽引者になってほしいという期待と、そのような人間を育てる学校の使命が謳われている」の意がある。

中学校の教育方針は「互いに高め合う、系統化された一貫教育で豊かな人間力を培う。伝統、実績、真の学びで揺るぎない学力を育む」を掲げる。

学びは、「1・『挑戦』高いレベルの内容に触れ、学問への憧れを高める」、「2・『探究』自ら課題に取り組み、考察し、発信する」、「3・『補習』学習内容の意味、背後の文化を知り、深い理解に至る」、「4・『習得』知識や技能をしっかりと身につけ、活用できるようにする」の4項を基にする。

人間力を培う「学びの協同」・「社会との協同」・「家庭との協同」の三つの協同で生徒を育成する。

部活動

部活動も盛ん。令和4年度は弓道部や囲碁部、将棋部、書道部、合唱部が全国大会に出場。今年度は山岳部、囲碁部、将棋部が全国大会に出場、地理部はジュニア世界オリエンテーリング選手権大会に出場するなど、活躍を見せている。

「葛城会」は母校の充実発展に寄与する

千葉県立千葉高等学校同窓会・愛称「葛城会」（林孝二郎会長）は会員相互の融和向上を図り、母校の充実発展に寄与する。同窓生による「社会人講演会」の実施や「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」（学校の教育活動への寄付）などにも協力している。活動内容を同窓会報やホームページで公開する。定時制卒業生同窓会組織の「葛の花会」（永田忠以会長）や支部会の東京葛城会、養県会（市原支部）、東金葛城会、成田葛城会、佐倉葛城会、千友会（千葉県庁千葉高同窓会）、千葉市役所葛城会、みのはな（千葉大学医学部）など、各地区支部会や職場支部、部活動OB・OG会も活発に活動する。

卒業生は3万人を超え、国内外の各分野でリーダーとして活躍している。

祝 創立145周年
医療法人 浄光会
千葉みなと病院
理事長
西村 佐和子
（平成5年卒）
千葉市中央区中央港1-29-1
TEL 043-241-5381
JR京葉線、千葉都市モノレール
『千葉みなと駅』徒歩5分

千葉日報令和５年９月２８日（木）付け